

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくらひがし木もれ日のぬくもり		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2025年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2025年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりを大切に、個性や個人差があることを理解してその子どもへ支援させていただくという考え方を職員全員が共有できているという点。	「ほめ育て」「抱きしめ育て」「みとめ育て」の3つの育てを職員全体に共通の認識で、子ども一人ひとりへの関わり方を共有するように努めさせていただいております。	個人差や個性の違いについて、常に念頭に置いた職員教育を整備して、新入職員の雇い入れ時に同様の内容を周知できるように整備の強化を図っていききたいと思います。
2	専門性を高めるために、専門的支援の実施を含む専門的な計画の作成とそれらに準じた支援を提供できる点。	理学療法士等の専門職スタッフや経験保育士や経験児童指導員による専門的支援を積極的に取り入れさせていただいております。その中で個別集中的な支援によって、各領域において成長を実感させていただいております。	理学療法士等の専門職スタッフや経験保育士、経験児童指導員一人ひとりの専門的支援のスキルの向上を日々の専門的支援などの実践を通して高めていききたいと思います。
3	なによりも利用者様のみならず、楽しんで通ってくださっているという点。	一人ひとりに寄り添い、子どもたちの話をよくよく聞き、受け入れられている実感を持ってもらえるような環境であること。また、木もれ日のぬくもりの居場所が楽しい場所であるという感覚をもってもらえるような環境を目指しています。	平日の個別療育と土曜日の集団療育のメリットを見える化して、個別支援計画などにおいても具体的な支援の特性も含めた更なる日ごとの差別化を図っていき、木もれ日のぬくもりとしての「個別の児童発達支援」「集団の児童発達支援」を確立させていけるように努めていききたいと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会などの保護者様の交流の場が整備できていない点。	父母の会という言葉が保護者様的にも職員的にも負担感を感じるところがあるのではないかという認識があり、会の設立というところについては積極的に進めることはできていませんでした。	保護者同士の交流の場ということであれば、求めておられる印象がありますので、そういった場の提供ということでの企画としては検討を進めていききたいと思います。
2	非常災害時のための訓練の実施や、各種マニュアルの存在を保護者様にしっかりと周知できていなかった点。	契約時に多くのことをお伝えすることで、マニュアルや書類の意味が形骸化していきってしまう傾向がありました。	今後は各種マニュアルについてはHPで随時、閲覧できるように掲載することを検討していききたいと思います。
3	家族支援を含むペアレントトレーニングについての内容をわかりやすく伝えることが出来ていなかった点。	子育てサポート加算に関する支援の場を見学できる場を提供し、家庭でのペアレントトレーニングとしての相談援助ができることを保護者様にお知らせできていないところがある。また、ペアレントトレーニングという言葉について広い意味で取り扱うことができていないところがあった。	子育てサポート加算としての支援の場を見学できることを保護者様にお知らせしていき、その結果としての広い意味でのペアレントトレーニングを保護者様に提供できるように検討したいと思っています。特に就学前には不安に感じられる保護者様もいらっしゃるかと思うので、積極的にご提案をさせていただきたいと思います。